

消防研究センターと合同火災調査を実施

瀬戸市消防本部

5月8日、自動車販売店の整備場において、消防研究センター調査員及び自動車製造販売会社関係者と合同で車両火災の原因調査を実施しました。

この火災は、インパネ付近が焼損するという特異な燃焼現象であり、専門的な知識や技術を有する消防研究センターから調査員3名の支援を受け実施したもので、約9時間を要しましたが、消防研究センター調査員との合同調査の機会は少なく、専門的な手順や技術を学ぶことができました。



合同火災調査の様子

広げよう救命の連鎖！！

～地域住民が一同に介し救命入門コースに挑戦～

泉州南広域消防本部

泉州南広域消防本部(消防長 根来芳一)熊取消防署(署長 松藤忠直)では、平成26年5月18日に熊取町と共催で熊取町内の33の自主防災組織を対象に、相互共助の精神を発揮し、救命の連鎖を築き、心停止等の救急現場に遭遇した際誰もが適切な応急処置が実施できるようにすることを目的に、救命入門コースを実施しました。

この日参加したのは211人で、熊取署救急隊員の指導の下、「いちー、にー、さんー」と大きな声を出しながら、心肺蘇生訓練キット(あっぱくんライト)を使用し、胸骨圧迫等に挑戦しました。

参加者からは、「この経験を活かしお互いが助け合いをすれば、救急に限らず、自主防災組織が結束し、より安全な町づくりに繋がる。」という声がありました。



211人が参加した救命入門コース

消防通信

望

楼

ぼうろう

米海軍日本管区司令部消防隊と実火災訓練を実施しました

大和市消防署

大和市消防署では、「米海軍日本管区司令部消防隊」保有の「Mobile Structural Fire Trailer」を使用し、マンション等の耐火建物火災を想定として、実際の火災現場の状況(炎や熱がある環境)に近い環境下で消火・救助活動訓練を実施しました。

今回の訓練を通し、若い隊員の経験不足を補い、現場において適切な消防活動へと繋げると共に、厚木基地消防隊と合同訓練



実火災訓練の様子

を重ねることで、お互いの消火・救助技術の交換ができたことは、当市消防力の強化に繋がりました。

「ごみ収集車型爆発実験装置」を用いた火災予防広報

川西市消防本部

川西市消防本部ではスプレー缶が原因の火災について、市民に対してわかりやすく、視覚や聴覚に訴えるインパクトのある火災予防広報を検討、札幌市消防局、消防科学研究所の了承を得て「ごみ収集車型爆発実験装置」を作成、市美化環境部とコラボレーションし、スプレー缶の正しいごみ処理方法を市民に呼びかけています。

この取組を平成26年3月28日に福岡市で開かれた「第



火災予防広報の取組の発表

8回全国都市改善改革実践発表会」で「新たな消防広報の実施」と題し発表しました。

消防通信／望楼では、全国の消防本部、消防団からの投稿を随時受け付けています。

ご投稿は、「E-mail:bourou-fdma@ml.soumu.go.jp」まで【225文字以内の原稿とJPEG画像を別ファイルで送付してください】